


わたしたちが運ぶのは未来です

**運輸省**



# みなと しみず

**発行所**

第五港湾建設局  
清水港工事事務所  
御前崎港事務所  
下田港事務所



**「海洋教室」実施**  
**清水港みなとづくり見学会**

第55回「海の記念日」の7月20日、子供たちに港の大切さやその建設の大切さを知ってもらうため、清水港工事事務所は、清水市立辻小学校四年生60名を招き、「清水港みなとづくり見学会」を実施した。

この見学会は、「海の旬間」の行事の一環として、静岡県海事広報協会が主催する「海洋教室」に協賛し、実施したもので、来年度から、「海の記念日」が国民の祝日となり「海の日」として誕生するのを踏まえての初めての試みである。

見学会には、当事務所所属の監督測量船「まささき」、「ふじ」、「しもだ」の三隻を使用し、清水港内の各施設を船上から見学、さらに三保にある当事務所のケーソン製作場の上陸し製作作業現場を見学した。

当日は、曇天で今にも雨がふりだしそうな天候であったが、予定どおり11時、生徒60名と引率者が各船に分散して乗船した。全員が救命胴衣を着用したが、子供たちは、初めての経験にややこずったようであった。

船は、日の出岸壁から折戸湾に進み、途中、富士見埠頭で実施中の岸壁改良工事を船上から見学、その後、三保地区を経てコンテナターミナルのある興津埠頭へ向かった。元気がいっぱいの子供たちであったが、外港防波堤を通過したところ、数名の子供が船酔いをし、職員も大慌ての一幕もあった。

港内見学の後三保に上陸し、当所のケーソン製作場の作業現場を見学した。職員がケーソンの働きや、港の役割などについて説明したがやはり子供たちが最も感心を持ったのは、絵であった。工事現場のイメージアップ策として展示されている「未来の港」をテーマにした小学生の図画コンクールの作品やケーソン製作場の足場に張ったイルカに乗った少年を描いたイラストメッシュシートが子供たちの興味を呼んだようである。

ケーソン製作場の見学を最後に「みなとづくり見学会」は無事終了した。子供たちは、港の大切さをどのように受け止め、理解してくれただろうか。

「海の記念日」  
第五港湾建設局長  
表彰行われる

去る 7 月 20 日、清水マリニ  
ビルにおいて『第 55 回海の記  
念日記念式典』が盛大に開催  
されました。

式典は、午前 10 時から君が  
代の斉唱で始まり、関係各位  
の挨拶、来賓の祝辞の後、運  
輸、港湾、海上保安等それぞ  
れの功労者が表彰されました。



当事務所の関係では、個人  
の部で地域の振興と港湾整備  
に貢献された百々勇司氏（清  
水市）、長年にわたって潜水  
業務に貢献された山口周三氏  
（清水市）、長年にわたっての  
港湾の建設業務と港湾技術の  
開発に貢献された原田力一氏  
（浜松市）、海をきれいにす  
る奉仕活動と啓蒙活動に貢献さ  
れた小野田市雄氏（御前崎町）  
の四氏が、また、団体の部で  
優良工事として『清水港駒越  
北宿舍新築工事』を完成した

鈴与建設(株)が第五港湾建設局  
長賞を受賞され、表彰状が高  
松亨 清水港工事事務所長か  
ら手渡されました。

また同じく名古屋港湾会館  
の会場では、団体の部で『清  
水港富士見岸壁（-9m）（改  
良）棧橋補修工事』で大都工  
業(株)名古屋支店が、『清水港  
駒越北宿舍新築工事施工監理  
業務委託』で(株)玉井建築設計  
事務所がそれぞれ受賞されま  
した。

TSLL 実験船  
清水港で荷役作業

テクノスパーライナー  
（TSLL）実験船「飛翔」が  
7 月 24 日、鹿児島県志布志港  
から清水港に寄港しました。

今回の寄港は、TSLL の実  
用化に向けた安全航行の確保、  
輸送システム、事業の運営等  
についての総合実験の一環と  
して寄港したものであり、興  
津第 2 埠頭に接岸しました。

志布志港からは約 11 時間を  
かけて、牛肉、豚肉、野菜類  
等を入れた冷凍コンテナ、木  
材製品を詰めた普通コンテナ  
が運ばれ、TSLL の接岸作業  
が終わるとすぐ埠頭に設けら  
れたガントリークレーンによ  
りコンテナが次々と岸壁に降  
ろされ、大型トラックで陸送  
されていきました。



翌 25 日、日の出埠頭におい  
て歓迎式典と一般公開が行わ  
れ、次の目的地の横須賀港に  
むけ出航して行きました。

TSLL は 50 ノットの速力で  
1 千トンの貨物を積んで 500 カ  
イリ以上の航続距離を持ち、  
荒れた海でも航行できるとい  
う新形式の超高速船であり、  
この「飛翔」は昨年 2 月に進  
水した全長 70 m で、開発予定  
の実用船の約 2 分の 1 の大き  
さです。

総合実験は 7 月 19 日から始  
まり、11 月までに全国 33 港に  
寄港する予定となっており、  
TSLL 開発の総仕上げとして  
位置づけられているものです。

JICA の研修生  
清水港工事事務所来所

国際協力事業団（JICA）  
が主催する、港湾関係の実務  
研修で、来日中の外国人研修

生 16 名が、8 月 23 日に清水港  
工事事務所に来所した。

一行は、当所所長から清水  
港の現状と将来計画について  
の説明を受けた後、当所所属  
の監督測量船「まさき」によ  
り清水港内の見学を行った。



各国の研修生は、清水港の  
各施設をカメラに収め、また  
技術者らしく専門的な質問が  
数多くなされた。

ちなみに研修生は、アルジェ  
リア、アルゼンティン、バン  
グラデシユ、ブラジル、チリ、  
中国、エジプト、エリトリア、  
インドネシア、マレーシア、  
メキシコ、パナマ、フィリピ  
ン、サウディアラビア、スリ  
ランカ、タイ、ウルグアイの  
17 カ国（1 名都合により不参  
加のため 16 名が来所）からの  
参加でそれぞれの国の技術指  
導者として期待されている人

達です。

静岡・山梨両県知事  
清水港を視察

静岡県と山梨県の両知事が  
8 月 29 日清水港を訪れ、当所  
の監督測量船「しもだ」によ  
り清水港内を視察した。

この視察は、中部横断自動  
車道の建設促進をテーマとし  
た両知事の懇談に先立って行  
われたもので、同自動車道の  
整備と清水港の整備が深い係  
わりをもつことから企画され  
たものである。



浜名湖 MTP  
調査委員会

浜名湖と周辺地域の総合的  
な整備計画及び事業化等につ  
いて検討する「第 1 回浜名湖  
マリントウシッププロジェクト調  
査委員会・幹事会（委員長・  
酒匂敏次東海大学海洋学部長）」  
が 8 月 31 日、舞阪町内のホテ

ルで開催されました。

当該地域は浜名湖を中心とした観光地として知られていますが、プレジャーボートの放置問題、地域防災計画における緊急輸送機能の充実や臨海部の利用計画の策定等多くの課題を抱えており、これらの対応とウォーターフロント空間を生かした港湾機能の再配置や、マリーナ、海水浴場、親水緑地等々に親しまれる港湾空間づくりを推進する必要があります。会議は国、県、地元市町の代表者や学識経験者等委員18名と幹事14名の計32名で構成されています。

### 海で活躍する女性

#### フォーラムに参加して

技官 久保田靖子

7月22日、名古屋港ポर्टビルで、「海で活躍する女性フォーラム」が開催されました。

これは、一般的に、男の人

の職場と考えられている海や港で、こんな世界もあるということを知ってもらうため、主に女子学生を参加の対象としたもので、パネラーも全員女性で、モーターボートの選手、フォークリフトの運転手、船舶検査官など、様々な分野からの出席でした。

内容は、講演、ビデオによる海の職場紹介、ディスカッション、質疑応答という流れでしたが、予定の終了時間をオーバーしてしまうほど参加者が熱心に、聴いたり、質問したりしている姿が印象的でした。

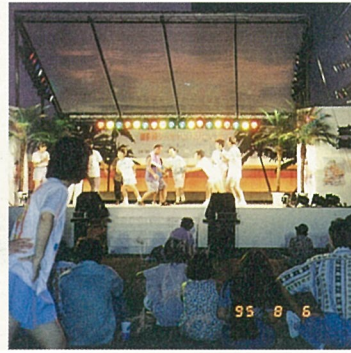
パネラーの方も、男性の中で働くことにそれぞれ苦労されているようで、自分も頑張らなければいけないと、改めて思いました。

最近の港は、水族館や公園など、遊べる楽しい施設が増えてきて、人が集まるようになってきたといわれていますが、物流という生活を支えているながら目に触れることの少ない部分は、男の人の職場と考えられているように、特殊なものとしてとらえられ、逆に、一般の人々から遠ざかっているように思うので、このフォーラムのような機会に、少しでもそんな港本来のがんばっている姿を、身近なものとして、理解されていくといいなと思いました。

### 御前崎港 事務所だより

#### 御前崎シーサイド ドリーム95開催

8月6日「95御前崎みなとまつり」が御前崎港で開かれ、その中で、「御前崎シーサイドドリーム95」と題して、御前崎町のイメージソングの発表イベントが行われました。イベントでは、楠木勇有行氏（カシオペアのボーカリスト）の歌唱指導、踊りの振り付けを考案した土井甫氏（ピंकレディの振り付けで有名な踊りの指導が行われ、最後に多くの参加者と一緒に踊って幕を閉じました。



この歌は、若者や観光客を対象に御前崎のイメージアツプを図ろうと制作されたそう、作詞は鈴里風太氏、唄・作曲がチューブ・中山美穂・ザード等のヒットナンバーを作曲した織田哲郎氏です。

タイトルは、「Seaside

Dream〜思い出の御前崎サンセットロード〜」で織田氏が御前崎を見てそのまま感じるままに作った曲だそうです。曲を聞いた感じも青い海、風光明媚な海岸線をもつ御前崎をイメージさせる乗りのいい曲です。

(長澤隆夫)

### 下田港 事務所だより

#### 三七〇年の伝統 下田太鼓祭り

8月14、15日の両日、約370年の伝統をもつ下田の夏の風物詩、下田八幡神社例大祭の太鼓祭りが、勇壮におこなわれました。

太鼓祭りは、江戸時代に下田奉行の今村伝四郎正長が町の整備とともに寛永元年に始めたものと伝えられており、太鼓の打ち方は大阪夏の陣で勝利を納めた徳川の軍勢が、大阪城入城の際に打ち鳴らした陣太鼓を模したものだといわれています。山車に歴史上や伝説上のさまざまな人形と太鼓をのせて町中を練り歩き、道具を一齐に持ち上げてアーチを作る道具太鼓橋も披露されるなど、夜遅くまでお祭りムードでもりあがっています。

(小島沙織)



### 交通安全講習会より

国家公務員安全週間、夏の交通安全県民運動行事の一環として、清水警察署交通指導課渡辺係長を講師に招き交通安全講習会を過日実施した。

講話では、交通事故は他人事ではない。自分が交通法規を守り、安全運転をすることも、まさこまれてしまうこともある。「だろー運転」から、「かもしれない運転」を心掛けよう。

また、交通事故にまきこまれないための注意ポイントは、①交差点、②朝の通勤時間帯、③週末の帰路、④夜間のコンビニ周辺。あたりまえではありませんが、「注意一秒、怪我一生。」といえます。皆さん、交通事故には、気をつけましょう。

労務厚生担当 井上 實

### みなとづくり見学会 実施者側の感想

高木英明

海の記念日当日、事務所職員総動員体制で清水港みなとづくり見学会が開催された。

当日の役割分担で、自分に与えられた仕事は「説明担当」。見学会直前、学生時代以来の一夜漬けで清水港についての知識を脳みそのシワにたたき込み、何とかなるさど聞き直って当日の船に乗船した。

しかし、相手はやんちゃ盛りりの小学生。事前に頭の中でシミュレートしたような展開にはならず、こちらの説明にもなかなか興味をもってはもらえなかった。若かりし頃、遠足のバスの中で、必死になって子供達の相手をするバスのガイドさんの姿を思い出し、今になってその心境が理解できた。



小学生達にとっては、ライフジャケットを着ること、船に乗って港内を周ること自体が新鮮な体験だったようで、うれしそうにはしゃぐ子供達を見て、自分の説明のまずさも棚に上げ、見学会も意義があつたのではと思つた。

今後の課題としては、見学会を開催する側として、見学者が楽しみながらも港をしつかり勉強出来るような見学会のノウハウを学ぶこと、特に今回のように対象者が子供の場合には、子供の相手の仕方にも慣れておくことが必要だと思ふ。しかし、後者については、花の独身者である自分にとつては特に難しいのだが…。

澤田 玲

海の記念日に小学生を招待して港内見学をするので説明をしてくれ、と依頼を受けたのは良いが小学四年生の知識レベルがまったく想像もつかないので困ってしまった。

自分の身边に同学年程度の子供がいればイメージもつかめるが、最近小学生位の子供と会話した記憶がない。

仕方がないので、とりあえず鋭い質問をされても返答に詰まらないよう、資料だけは十分準備しておき、説明内容のレベルは当日、実際に子供たちの反応を見て調整するこ

ととした。

そして当日、小学四年生は自分の想像を超越して騒がしかった。

説明が難しいのか誰も興味を示してくれない。



夏休みに入ったばかりで、みんなはしゃいでおり港について勉強するといふ雰囲気ではなかつたこともあるが、結局殆んど説明にならなかつた。もつと子供の興味を得られるような説明の仕方があつたかもしれないとの反省も含めこの経験を来年度以降に生かして行けば良いと思われる。

井上 實

今回の見学会では、辻小学校 4 年 2 組の 20 名の子供達の引率責任者として参加し、船舶は「しもだ」に乗船することとなった。当所船舶三船の中で、新しくきれいな船であることもあり、乗船に喜んでた。子供達は、夏休みということもあるのか、非常に元

気で明るく楽しそう（とにかく、人の話を聞かない。先生に注意されても動じない。椅子にじつと座つていられない）であつた。

港内見学では、港町の子供であり、港に関する知識も子供なりに備えており、船に乗船することも珍しいことではない様であつた。

ケーソン製作の現場見学では、大きな構造物、重機類を見て、感動の声をあげてくれるものと期待していたが、やはり、ケーソン自体を見慣れている様で、何の反応も得られなかつた。しかし、ヤード内にイメージアップで展示してある子供達の画いた港の絵には、興味を示していた。



見学会終了時に、子供達に記念品を渡したが、その時には、子供達は大喜び、また来

年も来たいと言つていた。最後に、夜の反省会で引率責任者として最も板についていたとの評価をいただいた。素直に喜んでよいか、悩む。

### 管内の動き

#### 7 月

24 日 T S L 実験船「飛翔」清水港で荷役作業実験

#### 8 月

23 日 J I C A 研修で所長講師 御前崎港岸壁（14 m）、防波堤西設計会議（本局）清水市防災会議

28 日 静岡県清水 F A Z 事業推進協議会（マリバール平安閣清水）

29 日 静岡県知事、山梨県知事清水港視察所長港内説明

30 日 清水市漁協臨時総会

31 日 浜名港 M T P 委員会

#### 9 月

1 日 防災訓練

5 日 第 3 / 四半期実施会議

8 日 下田防波堤技術検討調査委員会（静岡第一ホテル）

13 日 所長会議

#### 10 月

16 ~ 17 日 管内技術報告会

17 日 浜名港 M T P 第 2 回委員会

21 ~ 22 日 管内主管部長会議

#### 水発行所\*

清水港工務事務所

〒424 静岡県清水市日の出町七二

TEL (〇五四三) 五二一四一四六(代)